

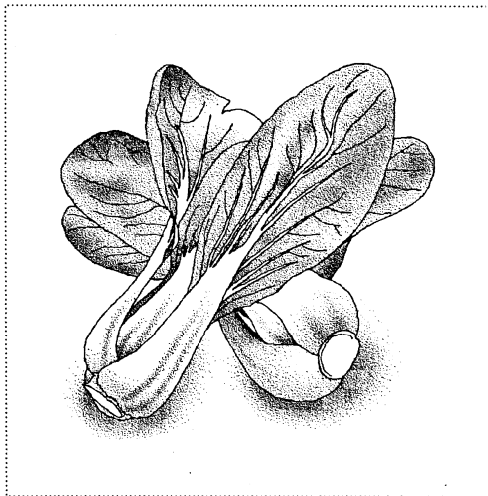
本葉3枚のとき間引き

——**鮫島 國親**



1972年の日中国交回復以降、中国から日本に伝わった中国野菜の一つです。青軸パクチョイとも呼ばれ、鮮やかな緑色の葉柄と歯切れの良さが好まれ、中華料理などに広く利用されています。栽培しやすく家庭菜園で人気の高い野菜ですが、ハウスを利用した周年栽培も行われています。今回は高温期の安定生産をねらった雨よけ防虫ネット栽培を紹介します。

発芽適温は20-25度、生育適温は15-20度で冷涼な気候を好みますが、比較的暑さに強いです。13度以下で花芽分化し、その後の高温・長日でとう立ちが促進されるので早春まきでは注意が必要です。連作による障害を防ぐには太陽熱消毒が有効です。(方法=梅雨明け後、ほ場を軽く耕し、小うねを作り、透明ポリや古ビニールで地面を1カ月間ほど覆う)露地でも効果はありますが、ハウスを密閉するとより効果的です。本ぼは1平方メートル当たり苦土石灰20-30グラム、堆肥0.5キログラム、化学肥料15-20グラム(三要素15%の場合)を一作分の目安として施します。また、種まき2-3日前に1平方メートル当たり30リットル、生育期2-3日ごとに10リットル程度の水をまき、生育を安定させましょう。



栽植密度は条間20センチ、株間15センチで、必要に応じて通路を設けるとよいです。種まきの方法には点まきと条まきがありますが、いずれも本葉三枚のときに15センチ(一株)に間引きします。なお、本ぼの栽培期間短縮や初期生育安定対策として移植栽培が有効です。セル成型苗(200穴トレイ)を利用するとよいです。

日中の最高気温は25度を目標とします。晴天日の高温時は遮光率30-40%の寒冷紗をハウスの外側に被覆しましょう。すそあきのトンネル掛けも有効です。また、ハウスのサイドに1ミリ目合いの防虫ネットを張り害虫の侵入を防ぎましょう。種まきから収穫までの日数は初夏まきで40日くらいです(冬まきは

60-80日)。一株重80-120グラム、草丈20-25センチが適期です。朝夕の涼しい時間帯に収穫しましょう。

長)

(鹿児島県農業開発総合センター副所